

テーマ

**奈良を知る 地域を知る**

目標

**地域の人々が線から面へとつながり、****地域を誇れる子どもたちの育成**

今年度の取組紹介

**・文化講演会**

地域の良さを学び、自分を育ててくれた地域や学校を誇りに思う生徒の育成をめざしています。今年度は、元若草中学校教員の北村雅昭先生に「松永久秀と多聞城」と題し、ご講演いただきました。北村先生の軽妙な語り口でわかりやすく楽しい講演会になりました。

**・コーディネーター会議**

年間7回の「コーディネーター会議」を継続して開催することができました。和やかに話し合いを進めることができ、小学校区どうしの地域の方々のつながりが深まってきていることが実感できます。

**・取組見学会**

3小学校を中心に取組の「見学会」を実施できました。特徴ある各運営委員会の取組を見学することで、コーディネーターどうしでの情報交換や交流がさらに深まりました。

**・校区交流ルーム**

「校区交流ルーム」を開設することができました。校区の各運営委員会の取組のようすを紹介していきたいと考えています。

今年度のまとめ

幼から小へ、小から中への接続を念頭に置いて7校園の個々の取組を線でつなぐ意識付けがまだまだ不足しているように思われます。つまり今年度から実施しました「見学会」は、3小学校の「放課後子ども教室」の取組が中心となってしまい、地域教育協議会の取組の交流や連携の意識が薄くなってしまったのではないかと感じています。そこで26年度は、それぞれの校園で行っている取組を線で結びつける意識付けをさらに進めていかなければならないと考えています

そうすることにより、もっと有機的な人々のつながりをつくっていききたい、と考えています。

来年度に向けて

- ・「地域コーディネーター会議」を継続して開催し、情報やアイデアを交換することにより校区コーディネーターどうしのつながりをさらに深めていきます。
- ・若草中学校区内各校園の取組の「見学会」を計画的に実施し、活動内容の理解を深めながら連携を模索していきます。
- ・「校区交流ルーム」をさらに充実したものにしていきます。

これらによって、それぞれの校園の取組を継承しつつ、小学校校区の垣根を低くし、取組の連携を模索しながら、幼から小へ、小から中へと滑らかな接続がなされ、協議会へと集約されていくことをめざします。

テーマ

**学びをはぐくむ**

目標

**自ら学ぶ姿勢と思いを表現できる力を身につける**

今年度の取組紹介

## ○学習支援

- ・「学びのはぐくみ」の作成・配布

家庭学習のすすめかたや3年間の学習を見通した冊子「学びのはぐくみ」を作成しています。今年度は学習の目標や内容・年間計画、評価規準を明示するためのシラバスを付加しました。

- ・「中3学習会ボランティア」

3年生では進路実現に向けてより確かな学力をつけるために地域のボランティアに協力いただき学習会を開いています。



## ○学校行事

- ・「文化祭」「私の主張」発表会

自分の訴えたいことをしっかり伝え、友の話に心から耳を傾ける雰囲気を作りたいと考えています。今年も学級、学年、文化祭の場で発表会を行いました。

- ・「ゲストティーチャー」から学ぶ

1年生で3名の方からフランス、中国、カナダの文化や自然について学びました。

2年生では、8名の講師の方をお招きし、職場体験の事前学習会を行いました。障がい者理解講演会では、車いすバスケットの元日本代表の根木さんから学びました。

## ○環境整備

- ・「図書室と校地環境の整備」

PTAや地域の方々ボランティアとして図書室の蔵書整備や飾り付け、校舎壁面のペンキ塗り、花の植え付けなど生徒の学習環境をより美しく整備いただき感謝しております。



## ○安全支援

- ・「部活動巡回ボランティア」

職員会議等で部活動の場に顧問が付けられない現状の中で、活動する生徒を保護者の皆様が巡回ボランティアとして見守っていただいています。

今年度のまとめ

ゲストティーチャー・保護者・地域の方々に生徒の姿を見ていただく機会が多く持てました。また、生徒たちは多方面でご活躍の方々から数多くのことを学ぶことができました。

来年度に向けて

リニューアルした「学びのはぐくみ」を活用して、小中の連携を進めながら家庭学習や基礎学力の定着に結びつけていきたいと考えています。

テーマ

鼓阪のすてきな出会い、すばらしさ発見、さらにいいところへ

目標

地域の伝統文化や歴史的な事物に触れる活動を通して児童、地域を高める

## 今年度の取組紹介

## ◎つぎかフェスティバルを通して

1・2年生は生活科、3～6年生は「総合的な学習の時間」で地域の人、行事、仕事から学習した成果を劇化やプレゼンテーションにより、他学年や地域に発信しました。低学年では地域の人から昔の小学校の話の聞きとり、現在の学校と比べたり、国際交流をした外国の学校と比べたりして気づいた違いを発表しました。高学年では世界遺産学習を通して、奈良のすばらしい文化財に触れ、それらを守り続けるユネスコの活動について学習を進めたことについて発表しました。地域、保護者、児童が学習の成果を共有し、新たな課題について地域とともに学習を進めていく重要な事業です。



## ◎ニッポンバラタナゴ保全活動を通して

奈良公園で絶滅が危惧されていたニッポンバラタナゴが発見されて以来、その種の保存のために活動されてきた近畿大学農学部環境管理学科の北川先生をはじめ、大学生の方々よりニッポンバラタナゴの飼育の方法や環境と生物の関係等について特別授業を受けました。また、校区の環境を知るために佐保川の生物を調べ、その環境について学びました。また、生活排水が流れることなどを知り、あらためて自分たちと佐保川との関わりについて学習を進めました。



## 今年度のまとめ

世界遺産に囲まれた素晴らしい環境に学校があります。それら歴史にまつわる様々な行事、習慣等地域が守り続けた事柄が大変多く、守り続ける人々の結びつきは大変強いです。このような環境の中、学校が様々な「人」「物」「事」との出会いを演出することで地域の教育力の核となり、互いの結びつきを深め合えるよう取り組んできました。各取組を通して、児童には地域に対する誇りを持った輝きが見られました。また、地域の方々より協力、アドバイスを受けながらつながりができました。

児童が「人」との出会いで、様々な行いや考えを知り、「物」との出会いで、想像を巡らせ、地域を深く感じ、「事」との出会いで人と物とが結びつき、喜びを感じたようです。

## 来年度に向けて

来年度はさらに地域の「人」「物」「事」との出会いを大切にし、お互いに協働し、創りあげていく活動を織り込みながら事業を進めていきたいと思っております。

テーマ

## 佐保に生きる

目標

- ・ 佐保のよさが分かり、佐保を愛する心情と態度を育てる。
- ・ 佐保の自然や文化遺産を学ぶ

### 今年度の取組紹介

**マーチング活動** 児童24名（4年～6年）が、伝統あるマーチング活動を行っています。昼休みや放課後の時間を利用して、一生懸命練習に励んでいます。本年度も人権ふれ合いフェスタの行事に参加したり、幼・小・中・高合同のふれ合いコンサートや各種スポーツ大会の応援演奏で発表したりしています。今年度は他校との交流の場も設け、日頃の練習の成果を発揮しています。日々、地域の方々から賞賛の声とすばらしい評価をいただいています。

**ビオトープづくり** 主として、毎年5年生が佐保の森にある観察池をよみがえらせ、地域の方に支援してもらいながら、ビオトープづくりやその維持を行っています。水辺に合う植物を植えたり、周りの環境を整えたりすることで、「自然」に触れ、慣れ、親しみます。そこから自然生態を肌で感じ、「命」や「生きる」を身近な自然から発見しています。



**ともだち活動 幼小連携** リーダーとしての役割や活動への自主性が培われています。

異年齢集団活動は、人とつながることの大切さを知ることや友だちへの思いやりの心を育てています。友だちとのがんばりは、自分のよさを高める活動になります。

**みど少活動** 地域の方に葉ボタンを届ける「みどりの少年団活動」では、地域の人とのふれ合いや交流を通して、児童に自信と佐保に生きる誇り、地域を愛する心を持たせています。



### 今年度のまとめ

児童一人ひとりが、自分の住んでいる佐保のよさを理解し、地域の方のつながりや支えによって生きていることを肌で感じるようになったように思います。また、児童の生き生きした姿に、佐保のよさを知り佐保を愛する心が育っているとのお褒めの声を聞くこともあり、『児童が自信と誇りをもって活動していく一助になっている』と感じます。

また、自然やそれをとりまく地域や環境を考える中で、自然や人(地域の方、家族、友だち)そして自分を大切にする態度が育っているように感じます。

### 来年度に向けて

今後もこの事業を積み重ねるとともに、「地域の中での学校」の意識を保護者、教職員ともにもちながら、学校の取り組みを支えていただいている多くの方々はもちろん、ものやことに対して感謝の念を持つ児童を多く育てていきます。

また、事業の啓発もしっかりしていきたいと思えます。



テーマ

## 夢がひろがるつぎ北広場

目標

地域とのふれあい、人・もの・こととの豊かな体験活動を増やし、  
学び合い支え合いながら主体的に学ぶ児童を育てる

### 今年度の取組紹介

今年度、本校は創立30周年を迎えるにあたり、その関連行事に地域の積極的な参画をお願いし、児童の体験活動と学校・家庭・地域の連携の充実を目指しました。

なかでも、記念式典における紙芝居『オオカミのおんがえし』の上演は、地域の教育力が児童に活かされた特色ある取組の一つといえます。

『オオカミのおんがえし』は、校区に大切に語り継がれてきた地名伝説であり、かつて校区にあった「狼谷(おおかみだに)」の由来ともなっています。しかし、この話を知る人は今ではもうほとんどなく、伝承が途切れようとしていました。これを危惧した地域の協力者が学校に伝えてくださっていたことがきっかけとなり、当伝説を紙芝居にする企画が昨年度から始まりました。

こうして2年越しで出来上がった紙芝居のお披露目が、記念式典の場となりました。紙芝居の語り手には、ボランティアとして普段から本校児童に読み聞かせをいただいている「お話宅急便」の方に依頼しました。

式典当日、真剣に聞き入る児童の姿から、地域にまつわるこの紙芝居が、児童に地域への愛着を持たせることのできる優れた教材になることを確信しました。創立30周年の記念とするにふさわしい、心に残る式典となりました。



### 今年度のまとめ

創立30周年記念事業は、PTAを中心としたボランティアの献身的な活動に支えられ、成功裡に終えることができました。計画段階から何度も集まり、協議を重ねるごとに相互の連携が一段と深まりました。また、登下校の安全見守り活動においては新たな地域の協力者が現れ、その方を中心とした見守り組織の拡充と活動の強化が図られました。

これらの支援活動の多くは、コーディネーターが中心となって自立的に調整していただいたものであり、本校の教育活動を地域ぐるみで担っていただいています。

### 来年度に向けて

コーディネーターが核となって組織的に学校支援を行うしくみは、本校区にも着実に根付きつつあります。今後5年、10年とこのしくみを維持し発展できるように、新たな協力者探しとネットワークづくりを進めていきたいと考えています。

テーマ

**笑顔があふれるつざかっ子**

目標

園児・保護者・未就園児親子・地域住民・近隣園児・小学校児童がふれ合い、交流を通して豊かな心を育み、共に感動体験ができるようにする。

## 今年度の取組紹介

地域の教育力を活かし“地域を探検する”ことで、鼓阪の良さを知ったり、ふれたりする中で、意欲的に活動する幼児の育成に取り組めます。

☆菜の花プロジェクトを核にしてゲストティーチャーを迎えて環境について考える機会を設けました。9月には、出来上がった菜種油を二年生と一緒に東大寺に奉納しました。「心に灯をともし」という灯明の意味を教えてくださいました。また、奈良きたまち散策MAPを参考に地蔵めぐりをしたり、近隣園の友達と一緒に神社に出かけたりして、地域の方に話を聞かせていただきました。五劫院では、アフロヘアーのかわいらしい大仏様の姿に「東大寺の大仏様とちょっと違うな」と驚いたり、不思議がったりしていました。また、「じゅげむ」の紙芝居も読んでいただき、自分たちの名前にも興味をもちました。作品展では、新聞紙を使って「五劫思惟阿弥陀仏坐像」を作り、保護者・地域の方にみていただき、満足感を味わいました。

☆民生委員の方々との交流では、和やかな雰囲気の中、やさしく昔の遊びを教えてくださいたり、自分たちの得意なことを見ていただいたりしました。1月には、一緒に『なら世界遺産・文化かるた』を楽しみました。奈良のことがよくわかり、改めて自分たちの住んでいる地域の素晴らしさを感じることができました。

## 【幼稚園での音楽会】



## 【作品展】



## 【民生さんとのふれあい会】



## 今年度のまとめ

○様々な人・物との出会いを通して人と積極的にかかわる姿が見られるようになりました。地域の方が温かく見守ってくださることにより、いろいろな場面で新しい発見をしたり、自分の力を発揮したりすることができ、そのことが意欲につながりました。万葉苑との交流では、子どもたちが一生懸命に歌や踊りをする姿に声がでなかつたお年寄りが一緒に口ずさむ姿が見られました。子どもたちも自分たちが役に立ったり、喜んでもらったりしたことを知り、自信をもって行動できるようになってきています。

## 来年度に向けて

○「人・もの・できごと」との出会いを大切に楽しい経験を積み重ねていくことで、今後も人とかわる力を身につけさせたいと考えます。

テーマ

**輝く笑顔 心豊かに育ち合う楽しい幼稚園**

目標

**地域の教育力を活用し、豊かな社会性や人間性を身につける。**

## 今年度の取組紹介

- 地域の方の豊かな教育力によって、日本の伝統文化に触れ、挨拶や礼儀作法を学び、人と触れ合う楽しさや豊かな人間性を育てたいと願い、年間を通して『さほっこクラブ』を実施しました。  
(剣道クラブ) 姿勢を正しくして大きな声を出して挨拶をして、竹刀を持って動く心地よさを感じました。  
(柔道クラブ) 畳の感触を感じながら、立ち方、座り方を身につけ、受け身にも挑戦しました。  
(茶道クラブ) 道具の使い方が分かり、正座にも慣れ、お点前も上手になりました。  
(華道クラブ) 季節の花の名前や香りにも興味をもち楽しく生けました。  
(わらべうたクラブ) 地域に伝わるわらべうた遊びを楽しみました。
- 家庭や地域の人々との交流を通して、食べる楽しさや、食への興味を高めるために親子栽培活動を実施しました。自分たちが育てた季節の野菜を食べるという経験を通して、命の大切さや感謝の気持ち、いっぱい遊んでおいしく食べる楽しさが育ってきました。また、親子で活動することにより、生活リズムや食生活への関心につながっています。



## 今年度のまとめ

地域の方々との温かい触れ合いを通して、子どもたちは、地域の方を身近に感じ、大切にされているという喜びや、感謝する気持ち、尊敬する気持ちをもつなど地域の方とのつながりが深まり、会うのを楽しみにし、進んで挨拶をするようになりました。また、地域の方が、子どもたちの話し方や、ふるまいをやさしく受け止め、温かいまなざしで、認めていただいたことは子どもたちにとって、豊かな体験に結びつきました。年間を通して、楽しく活動することにより、子ども同士、親子間、保護者同士、地域の方々ともコミュニケーションが高まり、地域の中で、子どもたちが育まれるよい機会となっています。保護者にとっては、子育てを楽しもうとする気持ちの支えになったように思います。

## 来年度に向けて

次年度も継続して、地域の教育力をいただきながら、様々な感動体験ができるよう、より一層の連携を図っていき『地域の中の幼稚園』を目指していきたいと考えています。



テーマ

ふれあい であい 輝け 子どもの夢

目標

地域や学校との連携を密にし、世代を超えたふれあい、出会いを体験して豊かな心と輝く夢を育む。

今年度の取組紹介

## 【菜の花プロジェクト】

隣接している鼓阪北小学校と連携して、幼稚園と小学校にある菜の花畑で菜の花を種からまいて育てています。前年10月に種をまき、間引き、移植、満開の菜の花畑でのトンネルくぐり、刈り取り、脱穀・油搾りの作業をし、搾った菜種油を10月に世界遺産である東大寺大仏殿に届けるといった1年間を通して取り組んでいる活動です。この活動を通して、園児はきれいに咲く菜の花を見たり、摘んだ菜の花の天ぷらを食べたり、ボランティアの方々と触れ合ったり、小学生と一緒に作業したりと様々な体験をすることができます。また、世界遺産である東大寺大仏殿に親しみを感ずることができ、奈良市がすすめている世界遺産学習としての教育活動にもなっています。



## 【北っ子チャレンジ】

低下しているといわれる子どもたちの体力の向上を目指して、本年度から「地域で決める学校予算事業」を活用し、取り組みはじめた新しい活動です。NPO法人の支援のもと、年間を通して園児の体力向上に取り組みました。子どもたちは体を動かして色々な動きをすること、運動することの楽しさを感じとり、保育中の園庭での遊びにおいても、園庭開放時の遊びにも積極的になってきています。



今年度のまとめ

様々な人々との出会い、触れ合いを通しての体験を積み重ねたことで生活経験が広がり、人に対する思いやりや感謝の気持ちを培うことができました。今年度は、地域で決める予算事業を活用し、「菜の花プロジェクト」「お茶会」「リトミック」「エンジョイイングリッシュ」を継続するとともに、体力作りの取組「北っ子チャレンジ」を新たに始めることができました。

来年度に向けて

次年度もこれまで積み上げてきた実践を継続するとともに、園児がさまざま体験を通して、豊かな心を育むと共に、体力作りにも継続して取り組んでいきたいと思ひます。



